

平成25年8月21日

横浜市の図書館の発展を願う会
代表 溝井 正美 様

質問状（書）に対する回答

平成25年8月15付林文子に対する質問状（書）に対し、別添のとおり回答書を送付いたします。

林 文子事務所

〒231-0007

横浜市中区弁天通4-53-2

DOMONビル2階

TEL 045-228-9780

担当 相原 直樹

「人生の悩みの答はすべて本に書いてある」という言葉があります。小さなころから読書に親しんできたので、この言葉に共感しています。生きていくうえで、論理的な思考力と同じくらい大切なのが、しなやかな感受性や想像力を磨いていくことです。読書は教養の源であると同時に、救いや慰めになります。図書館には、日ごろ手に取らないような本もあり、また、司書の方のアドバイスや様々な行事、お知らせを通して、知の世界を広げることができます。まさに、知の拠点であり、文化のバロメーターだと思います。この5月に「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が制定され、乳幼児期から高齢期まで、市民一人一人が、豊かな文字・活字文化の恵沢を享受することができる環境を整備することがうたわれていますが、図書館施策の基本であると考えています。

一市民として図書館はよく利用していましたし、現場訪問で図書館職員と意見交換もいたしましたので、市立図書館にさまざまな課題があることは認識しています。一挙に解決、というわけにはいきませんが、身近で便利な知の拠点としての機能を充実させていきたいと考えています。

図書館に限らず、指定管理者制度や民間活力の導入は、メリットのある施設がある一方、検証を経た見直しが求められている場合もあります。しっかり検証し、今後の進め方を判断していきます。

市民の皆様と日々向き合う行政サービスをご提供している基礎自治体においては、何よりも「ヒト」の存在が大切です。図書館においては、市民の皆様の知的好奇心に応えられるよう、レファレンスサービスを拡充するとともに、地域の情報拠点としての役割を果たしていくうえでも司書の人材育成を拡充し、その専門性を発揮したサービスを提供できるようにしてまいります。

私の市政運営の基本姿勢は、現場主義です。図書館をご利用される方、ボランティアやサポーターの皆様は常に寄り添い、細やかにご意見をうかがうことは、日々の業務の中できちんと実行するべきことと考えています。年に数度、決まったメンバーが集まる「協議会」が良いのか、もっと柔軟に声を届けていただく仕組みが良いのか考えるべきではないかと思えます。

保育所待機児童ゼロを実現するために、あの手この手を考え出して実現してきましたが、お困りの市民の方に寄り添い、必ずお困りの状態を解決する、とがんばりぬいてくれた現場スタッフが「保育コンシェルジュ」です。保育士などの資格を問わず、熱意と寄り添い調整しきる力があるかどうかを、条件にいたしました。学校司書についても、教職員と連携して、授業や読書活動を豊かにしていくための情熱と意欲、寄り添う力をもっていらっしゃるかどうかをしっかりとみていきます。これまで読み聞かせや図書の整理などで活躍してこられたボランティアの方たちにも、ぜひご活躍いただきたいと考えています。もちろん、専門性も求められますので、しっかり研鑽を積めるよう支援し、学校図書館と各区図書館の連携を深めていきます。